

今回は、大学の教育学部で学びながら外国につながる子どもに関わる活動に参加している中千代さんと、子育てをする親の一人で、PTAの活動を通して多くの保護者や学校の先生と関わっている木原さんから話を伺いました。

大人が学ぶことって大切だと感じました。



木原剛弘さん
(津市PTA連合会会長)

私も子育てをしている親の一人です。私自身も日々悩みながら子育てをする中で、子どもから気付かされることがあります。PTAの活動では研修を受ける機会や、多くの保護者や学校の先生方とお話する機会があり、そこでも気付かされることが多く、私自身も学ばせてもらっています。

子どもを知ろうとすること

PTA連合会の研修で聞かせてもらった各地域での取り組みの中で、「子どものことを知って大事だな」と気付かされる話がありました。ある地域では、「元気で明るい子を育てたい」という思いで、保護者や教職員があいさつ運動に取り組みました。2、3日経った頃、学校の先生に「大きな声を出すのが苦手だから、あいさつ運動をしている前を通りにくくて悩んでいる」と子どもが相談しに来ました。そんな子どもがいることを知り、その子がプレッシャーを感じなくていい方法を保護者と教職員で共に考えたそうです。

この話を聞いた参加者からは「あいさつをプレッシャーに感じる子ども



がいると考えたこともなかった。一人一人のことを知ることで私たち大人の関わりも変わると思う」「あいさつは大きな声でするものだと思っていたが、大きな声を出すことが苦手な子も安心してあいさつできるように、何ができるのか考えることが大切だと感じた」という感想が出ました。私自身も、子育てについて学んだり、子どもがどのようなことを思ったり、考えたりしているのか知ろうとすることが大切だと気が付きました。



子どもの思いを聞くことから

ある日、子どもが「学校に行きたくない」と言ってきたことがありました。私は「学校へは何があっても行くものだ」と親から言われて育ちましたし、一度休むと行きにくくなるんじゃないかという不安もあり、「学校に行きなさい」と言うべきか考えました。でも、以前受けた研修の中で聞いた、まずは子どもの話を聞くことが大事だという話を思い出し、子どもに「どうしたの」と尋ねました。すると子どもは「学校で嫌なことがあったんさ」と話し出し、不安に感じていることを聞かせてくれました。子どもの不安な思いを知り、学校の先生にも相談しました。先生も子どもの思いを聞いて、クラスの子どもたち一人一人の不安が解消できるように取り組んでくれたことで、子どもも学校へ行こうという気持ちになっていきました。

子どものために、この方法が一番良かったのか分かりませんが、一人の親として、子どもを取り巻く大人の一人として、子どもの話を聞き、何ができるのか考えることを、これからも大事にしたいと思います。